

より頼れる「かかりつけ歯科医」に

いつまでも、自分の歯でおいしく食事がしたい。こうした時代のニーズに応え、子どもからお年寄りまで広く歯の健康管理のお手伝いをしている。歯周病治療、予防歯科、インプラント歯科、矯正歯科の四つの専門外来を軸に、三上格院長は「悪くならぬから治す医療(cure)ではなく、悪くならないよう予防する医療(care)」を提唱する。口の中の健康は、全身の健康づくりへの第一歩だ。

超高齢社会に対応して「人生100歳まで」を新基準に見据える当医院は、生涯にわたって自分の歯で生活していただくために、三つの基本理念を掲げる。①整った歯並びでバランスの取れた噛み合わせをつくる ②歯周病を寄せ付けない、口の中の環境整備 ③就寝時の歯ぐしりから歯を守る。

当医院は2016年度、厚生労働省の「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」に認定された。歯周病治療など在宅歯科診療(往診)を保険適用で行い、寝たきりの人たちの口の中の健康を守る。最も身近な「かかりつけ歯科医」として地

域包括ケアの推進役を担う。

17年夏、1996年の開院以来初となる大幅改修工事を実施。LED照明が整備された院内は、より明るく、より衛生的に生まれ変わった。1階トイレは体の不自由な人にもやさしいバリアフリー設計に。2階にもキッズルームが新設された。専用の手術室が設けられ、消毒コーナーを改修。超音波による治療器具の滅菌洗浄機械を導入するなど感染症予防対策を強化した。「施設をより機能的に、そして患者さんも、働くスタッフもより快適に」と院長は話している。



なごやかな雰囲気スタッフ一同

長く安全に使えるインプラント

バランスの取れた噛み合わせをつくるには、上下28本の歯全体が左右対称に並んでいることが理想だ。歯には、前歯、奥歯とそれぞれの役割があることから、仮に1本でも欠損すれば噛み合わせが悪くなり、どこかに無理がかかる。それを補うのが義歯、ブリッジ、インプラントといった治療法だ。見た目にも、実際の使用感ともに、天然の歯に最も近いインプラントはともなう、適切なケアを受けることで長期的にも安全に使用することができる。

当医院が採用しているのは、スイスの名門ストローマン社製のインプラントは、あごの骨にチタン製の人工歯根を埋め込み、その上に冠をかぶせる。生体組織に親和性の高い高品質な素材が求められるが、日本口腔インプラント学会専門医の立場からも、世界中で信頼される同社製品は自信を持って薦められるという。

インプラント治療にも、歯周病専門医としての視点から取り組んでいる。単にインプラントを入れる治療にとどまらず、インプラントを入れたことで他

の残っている歯を安定させて持続するための「歯を保護するインプラント治療」の考え方が本質」とする院長。また、術後の手入れも欠かせないという。「車は車検やオイル交換など定期的なメンテナンスをすることで長持ちします。インプラントを長持ちさせるためには、お車同様にメンテナンスが重要になります。定期的な検診をお約束させていただいております」



手術では、拡大鏡を使って精密な治療を行う



仲よく勉強に励むスタッフたち

医療法人社団 **みかみ歯科・矯正歯科医院**

☎(0144)35-3939

〒小牧市旭町4丁目7番20号

←ホームページはこちら



歯科・小児歯科・矯正歯科

診療時間 / 月・火・水・金 / 9:30~12:30 14:30~18:30

木・土 / 9:30~12:30

(水・午後インプラント、予防、歯周病外来)

休診日 / 日・祝日



苫小牧から全国へ発信する歯の健康管理

入れ歯は超音波で洗う時代に

大学卒業後、約10年間歯周病の医局に残り、博士号を取得した院長。日本歯周病学会専門医の目線で全ての歯科治療を構築してきた。「研究成果から、虫歯も歯周病も細菌による感染症であることがわかってきた」という。

歯周病予防のために、適切な歯磨き習慣などによるプラークコントロール（歯垢除去）が重要であることは知られるようになってきている。一方で、入れ歯には入れ歯特有の細菌からなるプラーク（デンチャープラーク）が付くこと、自然歯とは全く異なる除菌ケアが必要であることはまだあまり認知されていない。

そこで院長はこうした知識の普及に努める一方、大手メーカーのライオン株式会社と共同で国産の入れ歯洗浄キット「ラントヘルス」を開発。今年4月に全国発売された。専用の洗浄液と超音波振動によりデンチャープラークをわずか5分で除去でき、「歯磨きをしている間に終わるので、毎食後にケアする習慣ができます」と院長。外出先や災害時でも手軽に拭

いて除菌できるシートタイプもあり、胆振東部地震後に支援物資として被災地へ送ったところ非常に喜ばれたそうだ。

さらに殺菌力の高い洗口液、歯茎ケアに有効な歯ブラシや歯磨き剤といった製品も監修し、口内の除菌を総合的にサポートしている。もちろんセルフケアだけでなく、定期的に歯科に通ってクリーニングを受けるのも大切だ。

その他にも、就寝中の歯ぎしりで歯や歯茎を傷めるのを防ぐために専用のマウスピースを処方したり、子どものうちから口の中を清潔に保つ習慣をつけるよう丁寧に指導したりと、幅広い側面から口内環境の保全に尽力している。



新開発された入れ歯用洗浄キット

進化する「歯を抜かない矯正治療」

歯が本来あるべき位置に正しく並び、バランスの取れた噛み合わせを日常的に実現することが、歯の健康づくりの基本となる。見た目の美しさのみならず、全身の健康にも関わるだけに、矯正治療の重要性は高まっている。

小臼歯と呼ばれる4本の歯を抜いて歯並びを整える治療法が一般的だが、当医院は「歯を抜かない矯正治療」を実践しているのが特長だ。幼少期に抜歯することで成人後に発生する歯の欠損や歯周病にもなりやすいリスク、さらに噛み合わせの力を分散できないマイナス面も考え合わせれば、歯を抜かずに治療する手法の優位性が大きいと考えられるためだ。

包括医療の一環として、歯科衛生士の定期検診による小児期からアプローチする「育成矯正」を行い、患者さんの成長を長い目で見守りながら、コミュニケーションを大切にしながら治療を行っている。「矯正治療は、あごの成長に合わせて歯の移動と骨の再生を同時に行います。仕上がったとき、抜かずに歯並びを良くしたことに最大の喜

びを感じられますよ」と副院長は語る。

矯正装置も大きく進歩した。従来はワイヤーでできた装置が主流だったが、マウスピース型の「インビザライン」が登場し、注目を集めている。透明で目立たず、周囲の人目もあまり気にならない。また、食事などに取り外すことができ、歯磨きも容易だ。美観性だけでなく、機能面や衛生面でもメリットが大きい。希望に応じて処方することができる。



矯正治療を受ける前



インビザラインによる治療後



歯学博士・歯周病専門医 院長 三上 格

苫小牧市出身。1983年日本歯科大学新潟歯学部歯周治療学教室助手。90年歯学博士号取得（歯周病学）。歯周治療学教室講師（現在も非常勤講師）。2003年ハーバード大学ITIインプラントコース修了。日本歯周病学会専門医、日本口腔インプラント学会専門医・指導医、日本顎咬合学会認定医、日本臨床歯周病学会会員、ITIフェロー。



副院長 三上 睦子

栃木県日光市出身。1984年日本歯科大学新潟生命歯学部矯正学教室。1993年グリーンフィールド博士非抜歯矯正コース修了。日本矯正歯科学会会員。日本非抜歯矯正研究会会員。